

# 令和5年度高砂市成年後見制度地域連携ネットワーク協議会（第1回）議事録【概要】

日時：令和5年6月7日（水）午後2時～

場所：ユーアイ帆っとセンター2階 交流スペース7

---

## 1 開 会

- (1) あいさつ
- (2) 新任委員紹介

## 2 議 題

### 報告事項

- (1) 第4期高砂市地域福祉計画（高砂市成年後見制度利用促進基本計画の修正）について
- (2) 令和4年度取組実績及び令和5年度取組予定について
- (3) 支援活動における成功事例・課題について
- (4) 成年後見支援センターの進捗状況について
- (5) その他

### 協議事項

- (1) 高砂市権利擁護支援専門職バンクの活用方法について
- (2) 中核機関の周知について
- (3) その他

## 3 閉 会

---

### 報告事項

- (1) 第4期高砂市地域福祉計画（高砂市成年後見制度利用促進基本計画の修正）について

#### ○高砂市（中核機関）

- ・令和4年11月28日に開催された第2回高砂市地域連携ネットワーク協議会で協議し、(7)の任意後見制度の利用促進を追加。

- (2) 令和4年度取組実績及び令和5年度取組予定について

#### ○高砂市（中核機関）

##### 〈令和4年度取組実績〉

- ・高砂市の新任職員向けに成年後見制度の基礎知識に関する研修を令和5年2月16日に開催。
- ・成年後見制度相談会の3回目を令和5年3月17日に開催し、合計5件の相談。
- ・専門職バンクとの連携による個別相談の対応は2件追加となり、合計5件。
- ・成年後見市長申立ての支援と成年後見制度の利用助成の推進については、令和4年度末時点で、市長申立件数は13件。内2件は、申立て準備中に死亡。
- ・報酬助成決定件数は令和4年度末で、23件。内7件は、報酬を交付済み。

##### 〈令和5年度取組予定〉

- ・高砂市の新任職員向けに成年後見制度の基礎知識に関する研修を6月2日に開催。
- ・高砂市の生涯学習課が実施している社会教育講座に成年後見制度を追加。7月28日、8月

30日に実施予定。

- ・成年後見制度相談会を3回開催予定。第一回目は6月16日開催予定。
- ・成年後見制度支援検討会議を毎月1回開催予定。

○市長申立てで、申立て中に2件死亡というのは、かなり高齢で余命が短い方を市長申立てしようとしていたケースか。

⇒入院中の方で申立てをしていたが、その間に亡くなったケースである。

○亡くなったその後というのは、市が何か絡むのか。

⇒一人については生活保護受給中で、福祉部で対応済み。

○社会教育講座の参加人数と対象者について。

⇒対象人数は30人程度。社会教育講座については講座内容によって対象者が変わるが、後見講座に関しては特に対象者を限定しない予定である。

○虐待案件等でも後見の申立てが必要となるケースがあるが、そういったケースは、ここ1年で高砂市としてなかったのか。

⇒毎月開催している支援検討会議の中で虐待のケースはなかった。

○兵庫県司法書士会

〈令和4年度取組実績〉

- ・主に会員指導支援、推薦事件の配転、電話相談、委員の派遣。

〈令和5年度取組予定〉

- ・関係機関と進捗を確認し、連携することは常にやっていきたい。繋いで終わりではなく、まず衣食住の管理、身上面や財産面にプラスした分をチームで情報を共有し、プランニングの調整を図ることが重要である。

○兵庫県弁護士会

〈令和4年度取組実績〉

- ・後見に関しての研修を令和5年2月に神戸家裁の書記官を招いて研修を実施。それ以外にも、意思決定支援についての研修を実施。
- ・災害時の要配慮者支援や災害ケースマネジメントについて学習。
- ・定期的に神戸家裁と協議を実施。
- ・ホームロイヤル事業に取り組み、何件かケースができている状況。

〈令和5年度取組予定〉

- ・弁護士会で障がい者差別解消ADRに係る取組を進めている。

○一般社団法人ばあとなあ兵庫

〈令和4年度取組実績〉

- ・昨年度は高砂市に関係する事案が1件あり、スムーズに受任者、候補者を推薦できた。
- ・登録者の資質向上に向けた研修会を4回開催。

- ・名簿登録をしているが、受任に繋がっていない初任者向けの研修を開催。  
〈令和5年度取組予定〉
- ・名簿登録をしているが、受任に繋がっていない明石、加古川エリアの初任者向けの研修を6月17日開催予定。
- ・登録者の資質向上に向けた研修会を開催。
- ・専門職バンクに登録している3名の活用を促進していきたい。

#### ○地域包括支援センター

〈令和4年度取組実績〉

- ・社協だよりの12月号に成年後見制度について掲載。
- ・ケアマネ連携研修会で成年後見制度を周知。
- ・権利擁護支援相談受付件数は成年後見が49件、成年後見以外（遺言、保証人など）が32件。
- ・年1回権利擁護講演会（終活と成年後見制度）の開催。
- ・成年後見制度の申立て支援。
- ・社協の地域福祉課で日常生活自立支援事業の利用を支援。
- ・成年後見制度支援検討会議を毎月1回開催。

〈令和5年度取組予定〉

- ・権利擁護講演会を令和6年1月26日開催予定。
- ・成年後見制度の普及啓発。
- ・権利擁護支援相談受付。
- ・成年後見制度の申立て支援。
- ・社協の地域福祉課で日常生活自立支援事業の利用を支援。
- ・成年後見制度支援検討会議を毎月1回開催予定。

#### ○高砂市医師会

〈令和4年度取組実績〉

- ・当院では、2、3ヶ月に1回程度の簡易鑑定を行っている。

#### ○高砂市障がい者基幹相談支援センター みんと

〈令和4年度取組実績〉

- ・相談支援専門員からの相談事例が1件。

〈令和5年度取組予定〉

- ・事例検討会を開催予定。

#### ○高砂市社会福祉協議会

〈令和4年度取組実績〉

- ・日常生活自立支援事業（公共料金の支払い、郵便物の確認、金銭的な管理）を新規契約3人を含む延べ147人の利用契約者に行った。

〈令和5年度取組予定〉

- ・日常生活自立支援事業（公共料金の支払い、郵便物の確認、金銭的な管理）を現利用契約者13名及び新規契約者に行う。

○高砂市民生委員・児童委員協議会

〈令和4年度取組実績〉

- ・地域の中で課題を見つけ相談を受けた。

〈令和5年度取組予定〉

- ・見守り活動で成年後見制度が必要だと思われる人を見つける、あるいは相談を受ける。

(3) 支援活動における成功事例・課題について

○高砂市（中核機関）

〈成功事例〉

- ・専門職バンクとの連携により対応したケース。当初保佐、補助相当の見立てであったが、医師の診断書は後見相当であったため、市長申立てに支援方針を変更。支援検討会議後、診断が出るまでの間も司法書士、地域包括支援センター、中核機関の市との間で随時情報共有をしていたため、スムーズに市長申立てをすることができた。また、申立て準備で司法書士が資産等を調査していたということもあり、後見活動もスムーズに開始することができた。

〈課題〉

- ・専門職バンクの積極的な活用について。現在専門職バンクには弁護士が1名、司法書士が4名、社会福祉士3名が登録しているが、ほとんど司法書士しか実績がない状況。
- ・どのようなケースに弁護士、または社会福祉士に支援いただくかが整理できていない。

○兵庫県司法書士会

〈成功事例〉

- ・民生委員からの相談で、地域包括、行政と連携。当初は保佐、補助の見込みだったが、その後後見という診断が出たので市長申立てに切り替え、結果的にスムーズに申立てができた。

〈課題〉

- ・問題事例が発生後、支援方針が決まるまでの体制づくりが課題。
- ・調整検討や権利擁護のことを考えないで申立てしている案件があるので、ケースごとに調整会議を行い、それがもっと根付いていく必要がある。
- ・一部の会員に事件が集中したり、事件内で専門職が敬遠して受け手がいなかったり、本人や関係者とのマッチングの問題で成立しないなどの問題がある。
- ・何かあったときは成年後見センターに聞こうという流れがほしい。

○兵庫県弁護士会

〈成功事例・課題〉

- ・高砂市のケースで深く関わっているものがないので、成功事例、課題なし。

○一般社団法人ばあとなあ兵庫

〈成功事例〉

- ・名簿登録をしているが、受任に繋がっていない初任者向けの研修を開催し、不安を解消。受任に結びつけた。

〈課題〉

- ・名簿登録者はいるが受任者が不足している。
- ・勤務型の名簿登録者については、勤務先の兼業規定に抵触し受任に至らない。勤務先の理解が得られていない。
- ・専門職バンクに登録がある3名の活動実績がない。
- ・後見人等が疾病や死亡など職務不能になった場合に備えた対応方法が整備できていない。

○地域包括支援センター

〈成功事例〉

- ・後見人がつくまでの間、生活福祉課への相談や、検討会議を2回開催し、生活を立て直すためにヘルパーやデイサービス、ケアマネと協力し対応したケース。

〈課題〉

- ・後見人が着任するまで8ヶ月から10ヶ月かかったケースがあった。
- ・本人の拒否が強く申立て手続きが止まるケースが2件程度あった。

○高砂市医師会

〈課題〉

- ・かかりつけ医による鑑定促進。

○高砂市障がい者基幹相談支援センター みんと

〈課題〉

- ・本人や家族へ制度の説明をしても理解が難しく、時間がかかるケースが多い。

○高砂市社会福祉協議会

〈成功事例〉

- ・解約3名（内1人施設入所、内1人死亡）を除く1名が成年後見制度支援検討会議を経て、成年後見制度へスムーズに移行。

〈課題〉

- ・成年後見制度へのスムーズな移行における中核機関との連携。

○高砂市民生委員・児童委員協議会

〈課題〉

- ・一斉改選により新たに選出された約60名の民生委員への成年後見制度の周知。

#### (4) 成年後見支援センターの進捗状況について

##### ○高砂市（中核機関）

- ・今年度、（仮称）福祉総合相談センターとするために旧伊保幼稚園を改修。
- ・（仮称）福祉総合相談センターの1階に基幹相談支援センター、2階に地域包括支援センターと成年後見支援センターを配置。
- ・成年後見支援センター事業を委託予定の社会福祉協議会と委託内容について協議中。

#### 協議事項

##### (1) 高砂市権利擁護支援専門職バンクの活用方法について

##### ○専門職バンクとして司法書士の実績しかない状況で、どのようなケースであれば弁護士もしくは社会福祉士にご支援いただけるか。

⇒選別しなくてよい。加古川市では、司法書士と社会福祉士、弁護士単独などがあるが、弁護士単独の場合は、かなり紛争性がある場合か任意後見が絡んでいる場合が多い。

⇒ひとまずやってみるのは問題解決の1つかもしいない。呼んでもらったら、見えるものがあるかもしれない。

⇒専門職バンクを当番制にするのはどうか。

##### ○専門職バンクによる支援の成年後見制度支援検討会議では、保佐、補助等の類型は事前にわかっているのか。

⇒ケースによって異なるが、事前に診断書をとることは少ない。大体の検討をつけながら、医師に診断書を依頼することが多い。

⇒申立ての代理や資料作成の援助を受ける段階で、ある程度見立てが立っている方が専門職としてはありがたい。診断書がなくても長谷川式何点ぐらいなどの情報を集めてもらうのが嬉しい。

##### ○専門職バンクによる成年後見相談会は成年後見支援センターができてくると必要がなくなってくるのでは。それを見越したかたちづくりをやってもいいのでは。

⇒現在行っている相談会は後見制度の広報の意味も含めているので、センターの運用開始後の相談会の開催については、今後検討する。

##### ○支援検討会議に社会福祉士と司法書士、弁護士と司法書士等2人体制の方がいいのでは。

⇒試験的な実施を考える。

##### (2) 中核機関の周知について

##### ○来年から成年後見支援センターが開始になるにあたり、病院や施設に中核機関の存在をどう周知していくのか。

⇒時間の都合上次回の協議会で発表。